

キラリと光るダイセル製品のお得情報が満載！  
キラきら情報通信@ダイセル



知っていますか？

# SDGsって？ 企業は何をするの？



最近、よく見聞きする「SDGs」ですが、人に説明できるレベル、何となくは分かる、もしくは言葉は知っている・・・など、いろいろな方がいらっしゃると思います。私たちの部門でもその理解のレベルはマチマチです。

そこで今回、当社のサステイナブル経営を推進している、その名も「サステイナブル経営推進グループ」(そのままの部署名・・・)のリーダー 秋田に解説を依頼しました。

秋田の解説にもあるように小学生でも授業で習うそうなので、子ども達に質問されても困らないようにしておきたいものです。(よなみね)



## SDGsとは？ = 持続可能な開発目標

持続可能な開発目標 (SDGs)とは、2015年9月の国連サミットで採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」にて記載された2030年までに持続可能でよりよい世界を目指す国際目標です。

17のゴール・169のターゲットから構成され、地球上の「**誰一人取り残さない (leave no one behind)**」ことを誓っています。(外務省ホームページより)

SDGsについての詳細は外務省ホームページをご覧ください▶▶

<https://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/oda/sdgs/about/index.html>

※上記リンク先の外務省ホームページには【SDGs関連動画】の「ハローキティSDGs応援Vol.7」など面白いコンテンツもあるので、ぜひ一度ご確認ください！

## SDGsの視点は・・・これだ！

「皆さん、SDGsって知っていますか・・・？」SDGsの社内浸透に関わって約1年半が経ち、最近ではほとんどこの言葉を使わなくてもよくなりました。最近では学習指導要領にも入ったとかで、**小学校の子供たちでさえSDGsを学ぶようになり**ましたので、知らないと恥ずかしい思いをするかもしれませんね。



サステイナブル経営推進グループリーダー 秋田

次頁へ続く↓↓

このように、社会的にも認知度が上がってきたSDGsですが、実際に社内に取り組むとなると、**国連が決めたことと企業の活動の関係について知りたい！**という意見をよく聞きます。

実は、2015年にSDGsが採択された時の決議文の第67段落には「我々は、民間セクターに対し、持続可能な開発における課題解決のための創造性とイノベーションを発揮することを求める。」という一文があり、**企業にもSDGsに参加することが明確に求められているのです。**

しかし、そういう要請を受けた企業は、具体的にどうやってSDGs達成のための創造性やイノベーションを発揮するのでしょうか？

それに一言で答えるのは土台無理なのですが、ヒントとなる考え方が2つあります。それは、「**アウトサイド・イン**」と「**バックキャスト**」です。



「どうしてもアウトサイド・インになってしまうんだよな・・・」と嘆きながら、ゴルフ練習場でどスライスボールばかり打っているそのおじさま！SDGsに取り組むための「アウトサイド・イン」とは、あなたのスイングのようなヘボなものではなく、**社会の課題に基づいて自分たちの目標を定める**、ということなのです。営業部では、「お客様の顔を窺ったり、空気を読んだりするのは得意だよ」という人も多いかもしれませんが、考えるべきは自分たちの周りの狭い空間ではなく、グローバルレベルで社会の課題を考える、ということです。

もう一つ概念「**バックキャスト**」も釣竿を振ることではないですよ！これは、**将来のあるべき姿から今なすべきことを考える**、という思考法です。将来といっても、明日でも1ヶ月後でも1年後でも

ありません。はるか先のほとんど見えないほどの遠い将来を見据えて、あるべき姿を描き、今なすべきことは何かを考えよ、ということです。

SDGsでは2030年のあるべき姿を描いていますが、地球温暖化対応の世界では、2050年を見据えてカーボンニュートラルを目指すのが常識になっています。最近、菅首相が所信表明演説のおかげでこれも有名になりましたね。2050年は、筆者であれば生きていくかどうかの瀬戸際の遠い先ですが・・・、若手・中堅の方はまさしく“自分事”であるはずですよ。

この2つの考え方は、私たち日本人にはハードルが高いと言われていています。なにしろ私たちは昔から努力を積み上げて少しずつ成長するように教えられています。例えば、受験する〇〇大学は偏差値がXXだから、どこそこの弱点を克服するために集中して学習しましょう・・・、というように教えられ、目の前の目標に向かって頑張ります。どちらかという、あるべき姿でなく、あくまで近い場所の具体的な目標を目指す、という考え方が私たちには身に染みしています。

なぜ、SDGsは「**アウトサイド・イン**」とか「**バックキャスト**」とかにこだわるのでしょうか。それは、SDGsの17の目標が一見して無茶振りの目標だからです。例えば、先ほど触れた2050年カーボンニュートラル目標ですが、これは、**事実上ほとんど化石燃料を使えないか、使ったとしても出てきた二酸化炭素を排出しない**ことを意味します。エネルギーをたくさん消費する企業





が、今、そんなことをいきなりやろうとしたら、大きなコストアップを招いて経営が立ち行かなくなるでしょう。

それでも世界の多くの企業がこの方向性に賛同しています。**それこそがSDGsの力なのです。**

世界が合意したあるべき姿がSDGsであるならば、社会は必ずそちらの方向に動くことを信じるから、このような途方もない目標にも賛同できるのです。お金の流れを決めるのは人間なので、コストというのは、今は制約条件だとしても将来はそうではなく、**本当の課題は創造性とイノベーションなのです。**そして、それを発揮して**SDGsの目標の実現に貢献できる企業こそ**

**社会に必要とされ、お金が集まってくる**のです。だから、SDGsは企業の協力を求め、企業はそれに応えようとするのですね。

それでもやっぱり難しいけど大切なのは、「信じること」です。「アウトサイド・イン」も「バックキャストिंग」も社会のあるべき姿に向かって世界が協力して進んでいく、ということを信じることによって初めて自分事になります。国連が言っているから、ではなく、**取り組む人々の信じる力**があってこそ、この途方もない目標に立ち向かうことができるのだと思います。



ダイセルをはじめ、当部門でも「SDGs」に取り組んでいきます。  
具体的な取り組みに関しては、今後またキラきら通信でご紹介してきます！

## 今年も一年ありがとうございました！

開発営業部 みやもと(しよ)



今年も早いもので、残りわずかとなりました。皆様のご2020年はいかがでしたでしょうか？

今年には新型コロナウイルスの影響により、これまでの生活様式からがらりと変わり経験したことがない変化の年であったかと存じます。私自身も色々と考えさせられる1年になりました。来年は新型コロナウイルスが収束し、制限のない生活を迎えられるよう、切に願うばかりです。

前置きが長くなりましたが、今年も弊社製品・サービスをご利用いただき、誠にありがとうございました。2021年も皆様に弊社製品の“Sustainable value”を提供できるよう、引き続き努めてまいりますので何卒宜しくお願い致します。最後になりますが、皆様のご多幸をお祈り申し上げます。よいお年をお迎えください。

発行元: 株式会社ダイセル CPIカンパニー

〔東京〕 〒108-8230 東京都港区港南2-18-1 JR品川イーストビル  
TEL: 03-6711-8222 FAX: 03-6711-8228

〔大阪〕 〒530-0011 大阪市北区大深町3-1 グランフロント大阪タワーB  
TEL: 06-7639-7221 FAX: 06-7639-7228

ヘルプデスク フリーダイヤル: 0120-780-104 HP: <https://www.daicelchiral.com/>